

平成28年事業報告書

社会福祉法人福島福社会

1.	総括	1
2.	理事会運営状況報告	2
3.	介護施設事業	
1)	介護施設事業所での取り組み	3・4
2)	特別養護老人ホームいろは島荘	5
3)	社会福祉法人福島福祉会 特別養護老人ホームいろは島荘	6
4)	社会福祉法人福島福祉会 いろは島荘デイサービス事業所	7
5)	社会福祉法人福島福祉会 いろは島荘ホームヘルプサービス事業所	8
6)	社会福祉法人福島福祉会 いろは島荘居宅介護支援事業所	8
4.	児童福祉施設事業	
	養源保育所	9

平成28年度 事業報告

1. 総括

平成28年4月1日より指定管理制度から民設民営へ移行し新たなスタートを迎えた当法人にとって刷新元年であった。また、平成28年3月31日に社会福祉法人改革法が成立し平成29年度施行に向け大きく変化をとげる年度となった。社会福祉法人改革法では事業経営の透明性の向上、経営組織のガバナンスの強化、地域への公益的な取り組み等が求められることとなった。

当法人では今年度経営組織のガバナンスの強化の為に評議員会の設立準備を行い評議員選任・解任委員会を設立。評議員の選任を行った。また、それに伴う定款、各規程、細則等の改定を行い平成29年度施行に向け柔軟な対応をおこなった。

事業運営では、9月に副施設長を新たに配置、合わせて重要ポスト職員を採用し、次の世代を担う新たな組織体制をつくることに努め人口減少に伴う福祉施設収入減少等に対応できるよう体制作りを行った。

近年は、福祉人材の確保が大変難しくなっている。当法人でも離職状況は進み介護職員の確保と離職を減らすことは、当法人の重要課題である。職場環境を改善し処遇の改善を行うべく本年度10月に非正規職員を正規職員へ昇格し、また就業規則の改定を行い、定年制を60歳より65歳へと延長、年間に6日が自由に使用できるリフレッシュ休暇の導入、利用者様の生活リズムに合わせた職員の配置ができるような就業時間のシステム作りを検討した。平成29年度より施行予定である。今年度退職者は12名と少なくは無いが平成29年3月現在新たな職員の採用にて基準を超える職員の確保ができている状態である。

平成27年度より透明性の向上を図るためにホームページの作成に着手し平成28年度より運営をスタートすることとなった。事業報告、決算報告、事業計画、予算、広報誌等の内容は載せることができたが日々の暮らしや法人の活動に関することに対しての内容がホームページ更新の技術を持った職員が少なく更新回数が薄いものとなった。技術の向上は今後の課題となった。

経営状況については別紙事業決算報告書の通りである。

2. 理事会運営状況報告

理事会の開催回数、日時、議題

	開催日	議 題	出席 理事数
第1回	5/27 15:03 ～ 16:50	報告第5号 専決処分事項の報告（補正予算） 第1号議案 平成27年度事業報告 第2号議案 平成27年度決算報告	理事7名 監事2名
第2回	11/29 14:00 ～ 15:42	第3号議案 定款変更 第4号議案 定款施行細則の改定 第5号議案 評議員選任・解任委員会細則の 制定 第6号議案 評議員選任・解任委員会の選任 第7号議案 評議員会運営規程の制定	理事7名 監事2名
第3回	3/24 14:00 ～ 16:10	第8号議案 就業規則の改定 第9号議案 経理規程の改定 第10号議案 平成29年度事業計画 第11号議案 平成29年度資金収支予算 第12号議案 評議員 第13号議案 評議員選任・解任委員報酬規程 の制定 第14号議案 評議員選任・解任委員会の開備 第15号議案 理事長の互選	理事4名 欠席届出者 2名 監事2名

3. 介護施設事業

1) 介護施設事業所での取り組み

□委員会・会議等の実施状況

- ・いろは島荘における介護事業全体の委員会活動
身体拘束委員会・事故防止委員会・防災委員会を毎月開催し、広報委員会を随時開催して利用者の処遇改善とサービス向上に努めた。
- ・特養ホームの委員会活動
研修委員会を毎月行い知識を深める活動をおこなった。
排泄委員会、褥瘡対策委員会、被服委員会、レクリエーション委員会等を随時開催して日常生活における快適性に努めた。
- ・各事業所単位で会議を開催し利用者様の処遇が向上するように努めた。
デイサービス・・・デイ会議、処遇会議を毎月1回開催
特養・・・・・・・・担当国会議、処遇会議を毎月1回開催
訪問サービス、居宅においては、随時開催

□防災訓練等の実施状況

防災委員会を中心として夜間避難訓練、消火訓練、通報訓練、不審者対応訓練を実施しマニュアルの見直し等も合わせて取り組みや防火チェック等を行い利用者様の安全確保に努めた。なお、職員の消防意識の向上を目的とし松浦市消防本部主催の消火栓操法大会に男子の部で出場して第三位入賞の成績を収めた。

□職員の教育研修実施状況

- ・外部研修への参加
ホームページ作成セミナー、栄養士研修、介護事故とリスクマネジメント研修、身体拘束廃止研修、介護施設中堅職員研修、チームリーダー研修、介護サービス事業集団指導、県北地区老人福祉施設介護職員研修、指導者伝達講習、施設における危機管理研修、社会福祉法制度セミナー、デイサービス部会研究

会、医療ケア教員講習会、老人介護基本のき、STOP 虐待研修、高齢者虐待シンポジウム、全国老人福祉施設研究会（認知症、経営）、栄養、口腔ケア実践研修、在宅医療介護連携に伴う関係者研修、日常生活支援総合事業説明会、デイサービス経営セミナー個別機能訓練計画書作成研修等に積極的に参加し職員の資質向上に努めた。

・資格取得状況

介護福祉士、実務者研修、社会福祉士、認知症初任者研修、簿記初級中級等の資格に挑戦し下記の資格を取得した。

実務者研修終了・・・・・・・・・・ 3名

介護福祉士取得・・・・・・・・・・ 4名

社会福祉法人会計簿記初級取得・・・ 1名

認知症初任者研修終了・・・・・・・・ 2名

□苦情相談状況と対応結果

昨年度の反省を活かして「いろは島荘利用者相談事業実施要綱」に基づき小さな意見・要望でも迅速に対応することにより今年度苦情を受けることはなかった。職員行動指針を守りサービスの向上に努め入居者様、家族様の安全、安心の確保に努めた。

□食事への取り組み

管理栄養士を中心に給食委員会にて安全で美味しい食事の提供が出来るように月に一度、委員会を開催し行事食や旬の食材を使った季節感のあるメニューなどを提供した。また新たな取り組みとして魚の解体ショーなどイベントを開催した。

□地域に向けた活動

在宅介護の職員が中心となり利用者様、家族様、地域の方向けに介護教室を実施し介護の相談や認知症について、食事についてなど介護者の悩みを少しでも和らげるような取り組みをおこなった。

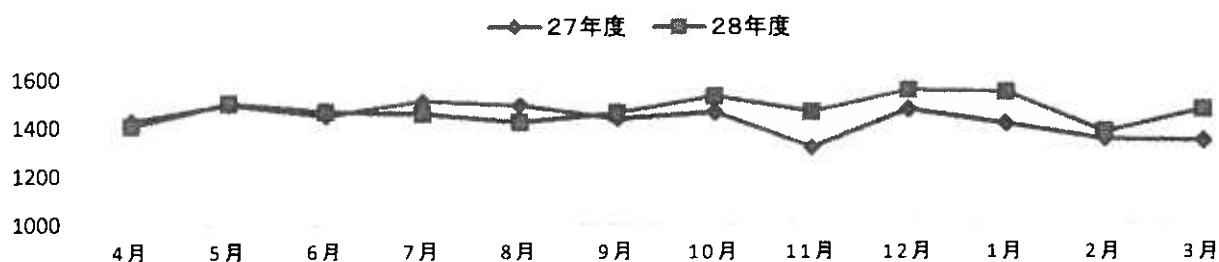
2) 特別養護老人ホームいろは島荘

職員不足により本年度は厳しい状況ではあったが看護師を中心とし利用者様の体調管理に努め、入院者が昨年度と比較し42%の減少となり収入が昨年度より7,097,870円増の205,816,070円の実績である。退所者に関しては12名中4名が要介護状態軽減され内2名が在宅への復帰を果たすなど職員の努力の結果が見られた。

利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間延べ人数	稼働率
27年度	1427	1495	1445	1507	1488	1434	1460	1316	1471	1413	1349	1342	17147	93.90%
28年度	1409	1500	1463	1453	1419	1458	1526	1462	1550	1542	1379	1472	17633	96.60%

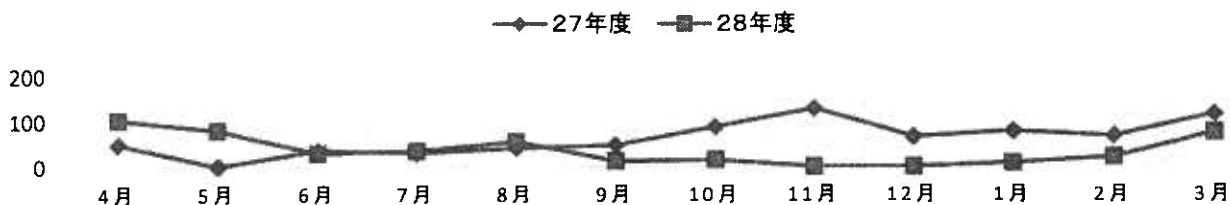
月別利用人数



入院状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
27年度	2人	1人	3人	3人	2人	4人	5人	6人	5人	5人	4人	6人	46人
	50	1	36	31	41	48	88	128	66	78	67	116	750
28年度	5人	4人	2人	3人	3人	1人	1人	0人	0人	2人	2人	3人	26人
	104	81	30	35	56	13	15	0	0	8	21	76	439

入院状況



退所者状況

退所理由	人数	計
要介護状態軽減による在宅復帰	2名	12名
要介護状態軽減による他施設入所	2名	
長期入院	7名	
他界	1名	

3) 短期入所事業所

職員の退職が多く人員不足に陥り一時的ではあったが受け入れを断念せざる負えない状態もあったが人員確保後は居宅介護支援事業所等への訪問営業活動等の企業努力により前年度利用状況より稼働率が14%上がり利用人数133人で延べ利用日数が2059日という実績である。月平均11.1人の利用で平均利用日数が171日、1人当たり月15.5日利用した事となる。年間の稼働率は56.4%であった。前年度同様に入院やグループホーム、入所施設への入所に動いた傾向も見られたが相談員を中心に職員一丸となり安定経営に努めた。

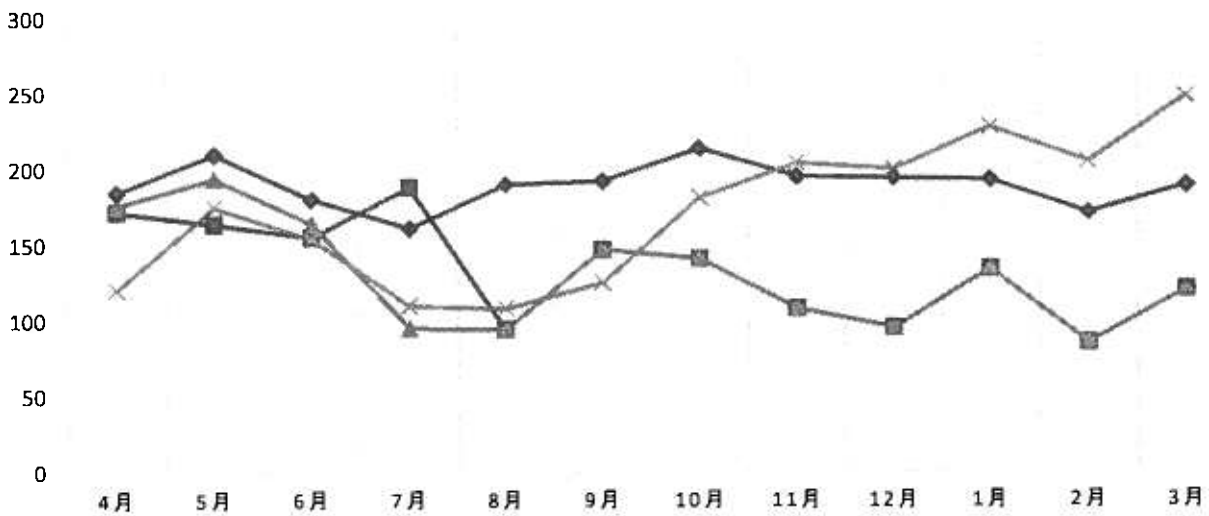
□ご利用状況

(床)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	稼働率
25年度	185	210	180	161	190	192	214	195	194	193	171	189	2274	62.30%
26年度	172	164	155	188	94	147	141	108	95	134	85	120	1603	62.60%
27年度	176	194	164	95	94	147	141	108	95	134	85	120	1553	42.40%
28年度	121	175	154	110	108	125	181	204	200	228	205	248	2059	56.40%

ショートステイ月別利用状況

◆25年度 ■26年度 ▲27年度 ✕28年度



4) デイサービスセンター

デイサービス事業では、福島町内外の病院経営のデイサービス、デイケアへリハビリが必要な利用者様が流れたことや利用が多かった利用者がグループホーム、宅老所、入院、特養等へ入所されたこと等が要因となり昨年度より21%の利用減少となっている。今後は、他事業所とのサービスの差別化が必要である。

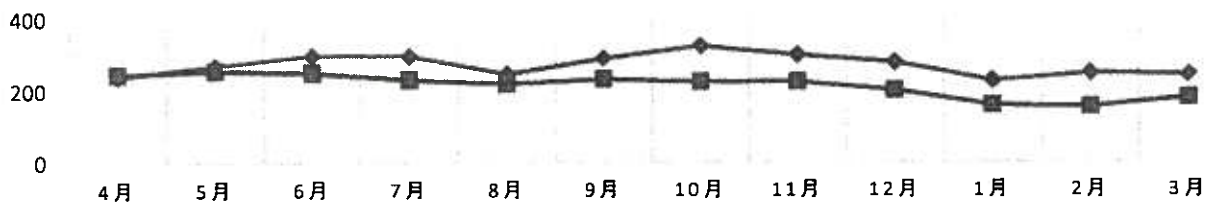
□ご利用状況

(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
27年度	242	270	298	296	247	290	324	299	278	227	248	244	3263
28年度	248	257	250	231	220	233	225	225	201	159	154	180	2583

月別利用人数前年度比較

◆ 27年度 ■ 28年度



□介護度別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1	0	0	4	5	4	9	7	13	12	11	14	22	101
要支援2	20	17	15	15	5	0	9	8	7	10	11	10	127
要介護1	107	106	102	94	104	95	85	85	79	62	54	65	1038
要介護2	70	76	63	61	45	67	69	58	48	42	37	46	682
要介護3	46	55	63	54	60	61	53	59	53	33	37	33	607
要介護4	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
要介護5	2	2	3	2	2	1	2	2	2	1	1	4	24
合計	248	257	250	231	220	233	225	225	201	159	154	180	2583

5) 訪問介護

職員一丸となり安定経営に努めたが、デイサービスと同様に利用が多かった利用者がグループホーム、宅老所、入院、特養等へ入所等により今年度は、年間利用人数が増加したものの延べ利用日数が9%の減となった。

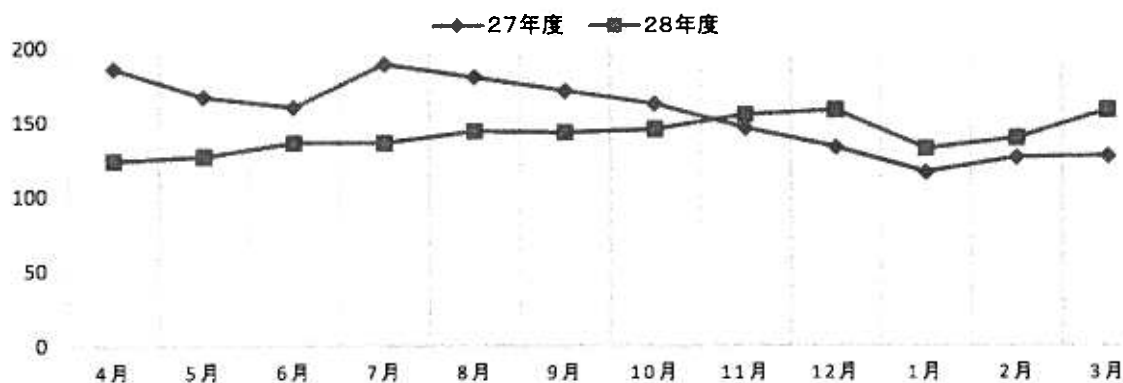
□利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
27年度	15	15	14	16	16	17	16	17	16	15	15	16	188
28年度	15	16	15	15	16	17	18	19	19	18	19	21	208

□利用回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
27年度	186	167	160	189	180	171	162	146	133	116	126	127	1863
28年度	124	127	136	136	144	143	145	155	158	132	139	158	1697

月別利用回数



6) 居宅介護支援事業所

認定調査業務、予防ケアマネジメントなど専門職として資質を高めながら運営に努めたが入院や施設への入所に伴い利用者の減少となっている。

	要介護者	要支援者	合計	月平均
26年度	505人	343人	848人	70.6人
27年度	534人	301人	835人	69.6人
28年度	460人	257人	717人	29.6人

児童福祉施設

養源保育所

年度当初は入所園児数が21人であったが、福島町へ転居された方等により入所希望があり年度途中より6名の入所園児が利用し27人となった為、安定経営に繋がった。

このことから前年度決算額より約28%増の48,796,770円の実績で今年度決算を迎えた。金額でいくと13,262,160円の増収である。

取り組みとしては立地を生かした大自然の中での体験的なレクリエーションや食育、小学校との交流イベントや老人ホームの慰問などを積極的に行い交流を深めた。また、詩吟やスイミング等を取り入れることで他児童福祉施設との差別化をはかり経営に努めた。